

46

『解体新書』訳述同人の「烏山松圓」は
「烏山松因」である

松木 明知

弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座

『解体新書』の訳業に参画した主要人物は、同書巻頭に披見される杉田玄白、中川淳庵、石川玄常、桂川甫周、そして訳業の盟主であるが名を連ねることを謝辞した前野良澤が知られており、他に玄白の『蘭学事始』によって、嶺 春泰、烏(鳥)山松園(圓)、桐山正哲(きりやま・しょうてつ)が知られる。この中で烏(鳥)山松園(圓)、桐山正哲の2名の伝は容易に明らかにされなかった。演者は桐山が弘前藩医であったことから、同じく弘前藩医の渋江抽齋の「直舎伝記抄」を再発見して、漸く桐山の詳細な伝を明らかにした。2010年7月、彼を顕彰する記念碑を菩提寺である弘前市の隣松寺境内に建立した。

しかし「烏(鳥)山松園(圓)」については依然として生没年ももちろんのこと、略歴の断片の手掛かりさえ掴むことが出来ない状況にある。1869年(明治2)に発行された『蘭学事始』には「烏山松園」と記されているのであるが、その後発見された内山本、長崎本に「烏山松園」とあることなどから、「烏」は「鳥」の誤写と見做されて「烏山」説が主流になり、その読み方も最近では演者の論考の影響もあって「からす山」ではなく「う山」とされている。「松えん」の「えん」は内山本、長崎本には「松園」とあるが、依然として同音の「圓」を採用している研究書も多い。

1930年に『蘭学事始』(岩波文庫)に注釈した野上豊一郎は「烏山松園」を「庄内藩医」としたが、その根拠は示されなかった。演者は以前に鶴岡市立図書館に所蔵されている庄内藩士の史料などを調査したが、「烏山」姓の藩士の名を見出すことは出来なかった。「鳥」は「鳥」の誤写とも考えられるので、「烏山」、つまり「からす山」、「う山」の名も庄内藩の諸史料に求めたが、徒労に終わった。したがって従来、「烏(鳥)山松園(園)」とされてきた人物の伝が不詳とされてきた理由の一つはその正確な姓名を特定できないことにあると考えて改めて鋭意探索してきたが、ついに山脇東門の門人帳「山脇門人帳」の中にそれと思われる人物の名を見出すことが出来た。1767年(明和4)の条に次のように記載されている。

同年九月二十三日(同年とは「明和四年」のこと—演者注)

江戸 烏山松因 瑩 花押
別所辰彌 取次 十八歳

出身が江戸であること、医家であること、「鳥」、「山」、「松」の3字が内山本と同じであり、4字目の「因(いん)」は「圓(園)」と発音上混同(in→en)されや易く、「因」が「圓(園)」と誤記された可能性が高いこと、「松因」は1767年(明和4)に18歳(数え)であったことから、玄白たちが訳述を開始した1771年(明和8)には22歳となっており、年齢的に矛盾がないこと、山脇東洋の『臓志』の影響で観臓にも関心を寄せたと思われる「松因」が、後に玄白の『解体新書』の訳述にも参画したと考えられることなどを総合すると、これが「からす(又は「う」、「とり」やま・しょうえん)」とされてきた人物と見做して誤りないと思われる。なお訳述の会に参加した石川玄常(明和9年6月19日入門)と「嶺 春泰(宝永3年3月16日入門)」の名がこの門人帳に披見されることも、上記の推定を補完する重要な所見であろう。したがって今後は「烏山松因」という名で、依然として詳細な伝が失われているこの人物について改めて探究する必要がある。